

## 平成29年度第2回北海道子どもの未来づくり審議会 子ども部会議事録

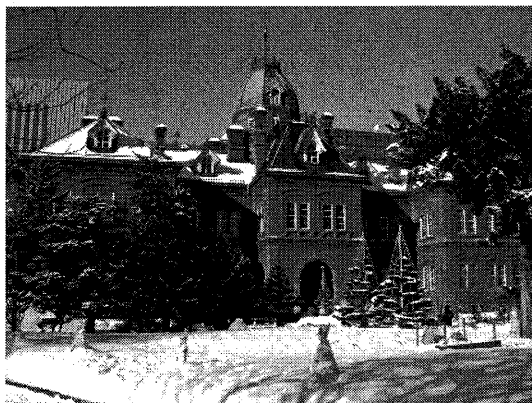
【日時】平成29年12月27日（水）10:00～15:00  
【場所】北海道庁 赤れんが庁舎 2階 2号会議室

### オリエンテーション

・事務局より、日程・注意事項などの説明

### 開 会

・司会～子ども未来推進局 丸山主幹



### 部会長の挨拶

#### 【富田部会長】

皆さん、おはようございます。昨日から悪天候で、朝早く出て来て頂いた方も多いかと思います。留萌では、灯台が流されてしまってテレビに出ていましたが、びっくりするような天気ですね。この悪天候の中、出席いただきましてありがとうございます。

本日の子ども部会ですが、8月に引き続き、第2回目の開催となりますけれども、今回はこれまでの議論をまとめていただく形になります。前回の議論の中で、いろいろと課題が見えてきているのではないかと思います。4か月の時間を空けて、こうして皆さんに集まっていただくまでの間に、前回グループで出し合った課題などについて、皆さんが各自で調べてきていただいていることもあるかと思います。今回の部会の中で、皆さんが調べてきたことなどを持ち寄って議論を重ねて、1つの形にまとめていってほしいと思います。皆さんがこれまでの議論の結果をどのような形でまとめていくのか、私自身も楽しみにしておりますので、どうぞ今日はよろしくお願ひ致します。なお、今回も道庁から3名の職員が進行役として、グループに入ってくださいこととなっておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

### グループ討議

#### 【富田部会長】

では、さっそく議事に入ってまいりたいと思います。8月に行った第1回目の中間報告の結果と今回の資料に添付している第2回子ども部会の基本的な進め方などを踏まえて、各グループでの話し合いをまとめてください。前回よりも議論の時間はあるかと思いますが、意外と話し始めると時間があっという間に過ぎて

しまいます。せっかく悪天候の中、皆さん出席していただいたので、一つでも多くの意見を出していただき、白熱した議論で最後まとめていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

では、各グループの進行役の皆様、お願い致します。それでは、グループの討議を始めてください。

(3グループに分かれてグループ討議)

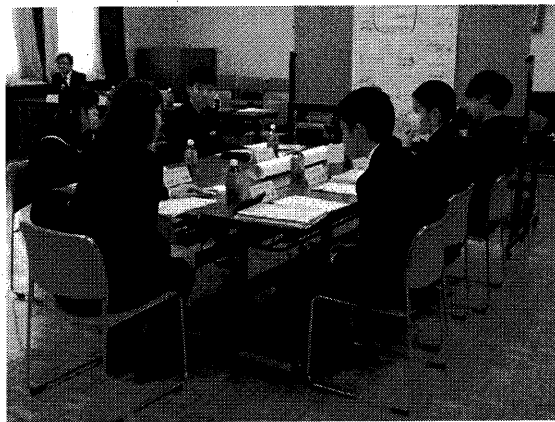
【Aグループ】



【Bグループ】



【Cグループ】



## 結果発表

### 【富田部会長】

それでは、皆さん大変お疲れさまでした。これから、各グループから、これまでの検討結果を発表いただきます。Aグループから発表をお願いします。時間は1グループ10分ということでお願いしたいと思っております。それでは、Aグループの皆さん、発表よろしくお願い致します。

### 【Aグループの発表】

A班では、前回、子どもとふれあう経験をする場が少ないということと、保育士さんの仕事について知ってもらいたいので、そのための場所を作りたいということと、子ども達が充実して過ごせるまちづくりのため、ボランティアを作りたいという話と、産休・育休の手当などをもっと充実させていきたいという話をし、そのためには何が出来るかということを考えてきました。

一つ目は、SNSを有効活用する、生徒会や学校で、保育士を目指している人を集めて保育所や幼稚園を

訪問するなどの意見が出ました。

二つ目に、私達が出来るとは、SNSを利用して情報を拡散する、募金を積極的に行う、それぞれの地域にあった活動することなどです。

育児と保育についての課題は、町でイベントを増やして色々な人と触れ合い、地域で協力し合うことが大切だと思います。そのためにも、ハロウィンやクリスマス、お正月などの地域のお祭りに積極的に参加して、色々な人と触れ合うのが良いのではないかと思います。あと、老人ホームの近くに、保育所や施設をつくることによって、交流しやすい環境が出来るかなと思います。

育児と保育の両面からみて、様々な年代の方々が集まる事が出来るイベントを作ると、子育ての情報交換などができ、お母さん方が安心して子育てが出来ると良い機会になると思います。次に、留学生に日本文化を伝えたり、外国語を教えてもらったりする機会を作ることも考えられます。例えば、お正月やお月見などの日本の伝統文化を留学生に教える代わりに、クリスマスやハロウィンなどを留学生から教えてもらう機会を作るということを考えました。子どもは、言語に関係なく、留学生の方と遊ぶことが出来ます。外国の方と関わる良い機会となって子育ての新しい活動の場となれば良いなと考えています。

これらをまとめまして、自分達に出来ることは、ボランティアを必要とする人とボランティアをしたいと思っている人が繋がる場を設けること、そして、興味のある人達の仲間を作って、その一人一人が現状を知るといことが大切だと思います。そのために、例えば、各地域の代表者が、SNSとかでハッシュタグを作って、ここでこういうことをやりますとか、これに参加したい人はここに来てください、みたいに情報を発信したり、連絡を取り合ったりすることが出来るかなと思います。

#### 【富田部会長】

きちんと前回の協議の結果から発展させて、ここまでまとめていただきました。ありがとうございました。質問などは3グループの発表が終わってから、皆さん相互にしていっていただきたいと思います。Aグループの皆さま、お疲れさまでした。続いて、Bグループの発表をお願いします。

#### 【Bグループの発表】

前回、私達Bグループが何をテーマに話したか、覚えている人はいますか。私達は前回、祭りをテーマに、育児のことを考えていこうと話し合いをしました。今回はそれをもとに、地域や学校での育児についての取り組みを最初に挙げました。

地域では、図書館で中高生やお母さんお父さん方が実施する、エプロンシアターといって、エプロンを着てポケットの中身から人形を取り出して劇をしたり、絵本を読み聞かせたりという活動があります。他にも、お母さん方が集まって育児について話し合ったりする活動もあります。

学校では、例えば中学3年生の授業で、赤ちゃん用のおもちゃを作ったりするそうです。作ったことのある人はいますか。これはすごく良い活動だと僕は思います。自分達のモノを作る腕も上がりますし、赤ちゃんのことを考えて作ることによって、赤ちゃんってどう考えたり、どうやって楽しんでくれたりするのだろうという赤ちゃん目線での考え方が出来るようになると思います。あとは、家庭科の授業で、離乳食を食べる学校もあります。

地域では、例えば、幼稚園と小学校を混ぜてみようという意見が出たり、幼稚園の運動会にお父さん達が参加するように、そこに僕達、高校生も参加出来るんじゃないかという意見も出たりしました。

最近、子ども達もDSやスマホを使っていると思うので、そういうツールを使って遊んだり、どこかの施設を借りて、みんなで集まってボードゲームを沢山用意したりして遊びたいね、ということで、ボードゲーム大会などの意見も出てきました。



この話し合いの中で出てきたのが、高校と保育園の取り組みです。結構、空いている教室って学校にあると思うんですね。その空いている空間で、保育園とか子どもを預かれる環境を作ってみようという意見が出て、これは良いってことで掘り下げていきました。

デメリットは、体格差があるので、子どもとぶつかった時にケガをするかもしれない、学生の勉強の邪魔になるかもしれない、学校内の保育園に子どもを預けるのが不安な親がいるかもしれない、子どもが苦手な学生もいるかもしれないなどがあります。これは、エリアを分けたり、防音設備を整えたり、少しずつ少しずつ不安を取り除いていったりすることが考えられます。また、子どもが苦手な学生も、子どもとの関わりを学ぶ上で、良い勉強になると思います。

メリットは、高校生と幼児が触れ合うことによって、幼児の心の成長に繋がるというものです。あとは、高校生も幼児に対して興味が出るということです。子どもを嫌いな人っていると思うんですね、でも実際に会って「この子かわいいな」とか思ったりすることで、子どもが欲しくなったり、保育士さんをやってみたいという人が増えてくるという可能性があります。それから、高校生が学校で保育園に関わるという家庭科のような授業もありますよね、調べてもらったら「保育科コース」というものが存在するらしいです。保育科を増やしていけば、良い取り組みができるのではないかと思います。

結論としては、学校と保育園、学校の中に保育園を作るという形ですね、それによって先ほど言った高校生が幼児達の面倒を見たり、保育科コースを増やしたりしていくことによって、この大きなテーマの育児のサポートや子育て支援が見込めるのではないのかと思います。これでBグループの発表を終わります。

#### 【富田部会長】

1回目の祭りの中心の話から大変貌を遂げて、結論を出していただきました。ありがとうございました。次はCグループの発表をお願いします。

#### 【Cグループの発表】

##### <嘉津山委員>

これからCグループの発表を始めます。8月の審議会が終わってから、私は南幌町の役場に取材をしに行きました。実際、南幌町はどのような取り組みを行っているのだろうということで、南幌町では、少子化というより人口減少を問題にして、活動に取り組んでいるとのことでした。

まず、南幌町ってどこにあるかと聞かれたときに、結構皆さん微妙な反応をするんですね。まず場所を知ってもらうために、町外や道外のイベントに出席して、うちわやパンフレットを配って、南幌町を知ってもらいます。次に、南幌町という町を知ってもらうために、スタンプラリーや移住体験を行っています。

スタンプラリーは今年開催したのですが、町内外から参加してもらったそうで、町内の人も、こういうところにパン屋があったんだとか、新しい発見ができたそうです。移住体験は、実際に移住体験団というのがあって、北海道に一定期間滞在してみて、北海道の冬を体験したりしてもらいます。

最後に、実際に町に引っ越してもらう時に、土地代だったり建築費だったり、お金が最終的に必要になるので、子育て世帯は、家を建てる時に最大200万円の助成金が出るそうです。その後も、小学校1年生～6年生までは医療費が無料だったり、中学校3年生までの子どもがいる世帯には、米を10キロ配布したり、いろんな施策を行っています。高校生には、最高月額1万円の通学援助が出るそうです。

私の通っている南幌中学校では、英検3級以上を獲得した人は、希望をすれば14日間のカナダ留学をさせてもらえます。このように、子育てにすごく充実した町になっています。最近では、新しい家がポツポツ建ってきているので、効果は徐々に出てきているのかなと思います。これが南幌町の取り組みです。ありがとうございました。

##### <澁木委員>

自分は高校の授業で北海道の総合計画について学び、その授業を通して少子化対策について考えました。北海道でなぜ少子化対策をしないといけないのかということ、理由が2つあります。一つは社会的問題で、一人っ子が多くなることから、孤立しないようにということです。二つ目は経済的問題で、生産年齢者を増やすことが課題としてあがっています。

なぜ少子化になってきたかという、子どもの高学歴化で教育にかかるお金が増加していることや、晩婚化で結婚の年齢が上がっていることなどがあります。そのため、伊達市では少子化対策として、子どもの医療費を2割から3割負担したり、一部の店舗では子育て世帯に割引を行ったりしています。

授業の中で他の国の少子化対策などを調べて、いいなと思った施策はスウェーデンの「スピードプレミアム」という制度です。日本では、1人産んでから次に子どもを産むまでの期間が短いと、親の所得に基づき育児休業中にもらえる給付金の額が減るのですが、このスピードプレミアム制度では、その期間が短くても2人目以降の子どもに係る休業中の給付金が減らない仕組みとなっています。

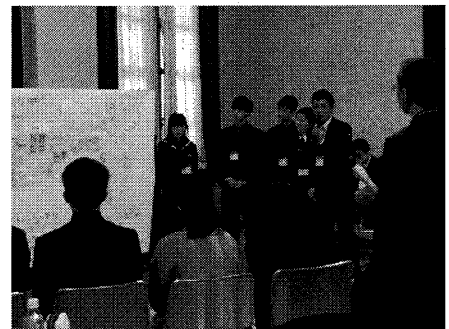
でも、こういう施策はその国の税金や物価が高いから出来ているとも言えるので、税金や物価が安い北海道や日本ではどうするかという、各自治体のふるさと納税の活用が考えられます。

道内各自治体のふるさと納税受入額を合わせると約40億円になります。そのふるさと納税の何%かを子育て支援のため道に納める制度を作ったり、神戸市のようにふるさと納税で市立高校の環境を充実させるなどして、北海道の税金を子育て支援に回すことができるといいなと思いました。

### <グループ発表>

前回の討議の中では、お金について掘り下げていくという話だったのですが、今回は、地域の関わり合いでもっと改善できるところがあるのではないかと話でまとまって、その中で、きっかけ作りがもっと大切なのではないかと考え、そこに重点を置いて、授業と地域と社会の3点に絞って話を進めていきました。

まず、授業についてです。ある学校では、家庭科の授業で、幼児向けの絵本を自分達で作って、その絵本を実際に保育園に持って行って、読んでもらったりして幼児との交流を図ったり、自分達で作ったおもちゃを実際に持って交流を深めたりしています。



総合の授業では、実際に子育て中の母親の話を聞いて、子どもってどんなところがあるのかな、育児ってどんなところが大変ですかといったことを聞いてみたりしています。また、学校でのボランティア活動の取組として、例えば海浜清掃とか、除雪ボランティアがあります。そういった活動を通して、色々な行事に参加して、どんどんきっかけを作っていけばいいなというふうに思いました。

次に、地域では、若者がいる場所がないと、きっかけも何も始まらないので、まずは居場所を作ることが大切だと思いました。食や企業との関わりも大切で、高校生が考えたメニューを飲食店に出したりしたら、若者が地域に住んでくれる場所がしっかり確保されると思いました。

最後に社会では、まず、町や地域からの支援や政策があるよねという話になって、移住体験や子育て世代へのお米の配布、住宅の誘致、ブックスタートなど行政側からの支援や政策も一つのきっかけなのかなと思いました。また、企業と繋がることで、地域の特産品や高校生が商品開発したものを販売したりして、自分達も地域の食が発展したり、町おこしになったりするという循環もできるなと思いました。

まとめますと、自分達の要望は、中高生が小さい子ども達と関わるきっかけを作ろうということになりました。そのために、①地域と学校のかかわり合いを増やすこと、②若い世代の人達の居場所を作ること、③地域がSNSを活用して情報を発信していくことが大事だと思いました。これで、C班の発表を終わります。

### 【富田部会長】

はい、ありがとうございました。それぞれの地域で実際に取り組まれていることも含め、きっちり自分達の情報として、最後まとめていただきました。

全体討議

【富田部会長】

それでは、3グループの発表が終わりましたので、色々皆さんとお話をしながら進めていきたいと思えます。他のグループの発表で、ここもう少し聞いてみたいとか、ここはどういう意味だろうとか、質問は何かありますか。まず、Aグループは、自分達が出来ること、何をすべきか、ということをもとめていただいたかと思うのですが、では、私から一ついいでしょうか。募金を積極的に行うと書いているんですけども、もう少し意味を補足してもらえると良いかなと思います。

【Aグループ：大西委員】

募金はですね、ボランティアのところに書いてあると思うんですけど、お金がないと何も始まらないという話になりまして、募金をして、そのお金でお祭りを企画したりとか、様々なイベントを計画したりとか、まず募金をして、そこからつなげていけるよねという話になったんですね。

【富田部会長】

自分達でお金を出し合ってやっていくことも必要だということでしょうかね。ありがとうございます。それでは、Bグループの発表で、何かもう少しここを聞いてみたいということはどうでしょうか。先程、子どもが苦手な学生もいるというようなことをおっしゃっていたんですけども、ご自分の周りにそんな雰囲気の方が多かったですか。

【Bグループ：鈴木委員】

そうですね、僕の周りや地域ではそこまで子どもが嫌いな人はいないです。

【富田部会長】

保育科コースという話が出たのですが、こういう学校があるのかなという質問が出ていたので、昼休みに調べたところ、高校の授業課程の中に、保育士を目指す方のために、保育の要素を入れた授業を組み込んでみたという札幌の高校が一つ出てきたんですけど、まだ一般的ではないですし、数も少ないですね。

それでは、Cグループの方はどうでしょうか、皆さんの方からのご質問はありますか。では、私の方からいいでしょうか。若い人達の居場所ということで、先程も説明の中で詳しく話していただいたのですが、若い人達というのは想定してみたのはどのくらいの年代の方ですか。

【Cグループ：三田委員】

大体、中学生から高校生とかです。中高生は、あまり地域活動に積極的に参加している感じはないよねということで、中高生がもっと地域に関わっていければという話になりました。

【富田部会長】

では、ほんとに皆さんくらいの方が集まって出来る場ということですね。

今回、3グループ、三者三様のまとめ方をさせていただいたのかなと思うのですが、うまく繋がっているなという気がします。1回目に立ち返ってみますと、「若者のふれあい体験を通じて、子育て支援の充実を考える」という大きなテーマが設定されていました。去年までの子ども部会になかった取り組みとして、実際に、子育て支援の現場で、皆さんに体験をしていただいた上で、グループ討議に入って頂くという新しい形で参加していただきました。子どもと触れ合う体験をして、また、子育て支援の現状を知って頂いたことで、皆さん、色々思うことがあったと思います。



前回、最後の発表の時に、午前中のふれあい体験の感想を発表していただきました。今回配られた資料の中にも、前回の報告が入っていると思います。皆さんの感想から、キーワードになりそうなことを並べてみますと、「小さい子ふれあうことがすごく楽しかった」「子ども達を守っていかなくてはならないって思っ

た」「実際に体験に行ってみて、これまでふれあうことのなかった世代と触れ合えた」とか、「色々な人と関わった経験が、今コミュニケーションに役立っている。実際に体験してきた施設でも色々な世代の人が関わっていた。」といったご意見ですとか、本当に素直に「子どもって本当に可愛いって思った」とか「幼児とのふれあい体験を通じて、もっと保育士の人が増えていったら良いのに」や、保育現場の厳しさを見て、「もっと保育に関わる人が増えたらいいのに」といった感想を持たれたり、「少子化は切羽詰まった状況と感じた」「子どもを見る人がもっと必要だ」「小さいうちにいろいろな経験をしたほうがいい」「将来、子どもと一緒に遊びに行ったりしたら楽しいだろうなと思った」「子どもが元気に走っているとこっちまで元気になってくる」「少子化について深く考えていなかった」「話し合いたとか、子どもとのふれあいが出来て良かった」など、そういった感想・ご意見がありました。

今回、発表していただいたのを見ますと、やはり子育ての厳しい現状を見て、子育てをする親御さんのための様々なイベントを作ることや、行事を通じて子ども達とかかわる機会が必要だといった意見が出てきたのかと思います。

Aグループでは、お母さん達や子育てしている親御さん達のために必要なことなども含めて議論をしていただいた上で、子育てをしている方々のために、子育ての情報交換の場や、様々な年代層が集まれるイベントを作るなど、色々な子どもと触れ合う機会を作るところに触れていただきました。

そして、自分達もボランティアとして出来ることがあるよ、ということで、それぞれの地域にあった活動をしていくために、情報を拡散したり、学校として取り組んだりすることが必要なのではないか、という意見が出てきたのかなと思います。中高生の自分達として、ボランティアを必要とする人と、ボランティアをしたい人が繋がる場を設けてもらえれば、自分達もお手伝い出来るのではないのか、そして、興味のある人の仲間を作っていくことや、一人一人が現状を知るといのが非常に大切なことだという、そういう意見がまとまってきたのではないかなと思います。

Cグループでは、実際に授業を通して、子どものためのおもちゃ作りとか、絵本を作って読み聞かせだとか、現在行われていることなども発表していただきましたが、まだまだ全道、全国の取組として機会は少ないかもしれない、そこで、要望として出てきているのが、中高生が小さい子達と関わるきっかけを作るために、ということです。なかなか中高生が自分達できっかけを作り出すのは難しいので、大人達の取り組みとして、地域と学校との関わり合いを増やしてほしいとか、若い人の居場所を作ったりしてほしいということのかなと思います。また、SNSで地域の情報を発信していくことで、色々と地域の取り組みやイベントなどの情報が広がっていけば、こういう機会に触れることのできない子育て中の親御さんにも情報が広がって行って、参加していく方が増えるでしょうし、皆さん達と同じように、自分達だって何かできるんだという人達が沢山集まるきっかけにもなってくるのではないかなと思います。Aグループでこういうことがあったらいいなということを、Cグループの方で、もう少し現在行っている取組など具体化して自分達の要望としてまとめてくださったのかなと思います。

そして、Bグループは、こういう自分達も、子ども達と関わって何か出来るというところで、新しい提案として、高校と保育園を合体させたら良いんじゃないかという新しいアイデアを提案いただきました。大人が考えると、制度の枠組みなどに縛られて、こういう大胆な発想は出来なくなってしまいうんですけども、皆さんが高校・中学で生活をしていて、さらに前回子ども達と触れ合う機会を体験したことで、少子化をなんとかしなければいけない、自分達もこういうことができるんだといった感想を踏まえて、子ども達が学校の場に来てくれば、自分達だって何か手伝い出来るよという新しい提案なのかなと思います。

学校と保育園が組み合わさった形を通じて、子どもが可愛いと思うことで子どもが欲しくなる、少子化対策になっていくということ、さらにそれを需要につなげて行って、将来の保育士を増やしていくという、そこまで見据えた展開が素晴らしい発想だなと思います。

三者三様の議論だったようですが、皆さん、前回実際に色々と体験をして思ったこととして、自分達が体験したことって、みんなにも必要だと思ったのではないかなと思います。そこからスタートして、今必要なもの、自分達ができることを突き詰めて考えていった結果、こういう自分達の要望や自分達のできることを、それから新しいアイデアに繋がっていったのかなと私は全体を通して考えました。

どうでしょうか、皆さん、前回実際に体験をしてみて、こういう体験は必要だなと思いましたか。自分達

だけではなくて、多くの人達に体験してもらった方がいいなと思ったのではないのでしょうか。普段の授業や部活動で、こういう幼児とのふれあい体験ってしたことはありますか。あ、結構皆さんはありますね、半分くらいですね。希望する人が参加するって感じですか、やはり機会としては少ないのでしょうか。

みんなが体験した方が良く感じた思いが、場面やきっかけが必要だという意見に繋がっていきました。皆さんの仲間の方々が出来ることっていっぱいあるんだと思います。それを生かせる場を、きっかけ作りになるようなことを私達大人が整備していかなければならないかなと思います。

私も、以前、ボランティア関係の仕事をしていたときに、最初の一步を踏み出すのがなかなか難しいんですね、少し背中を押してあげるような何かがあると、皆さん非常に積極的にボランティア活動に力を発揮して取り組んでいただけます。そういうきっかけ作りを、大人達が整備をしていって、皆さんがやる気になっていることを生かしていくことで、少子化対策に繋がっていけばいいのかなと思います。

将来の姿として、新しい取り組みというのは、まさに皆さんの視点でなければ出てこないと思いますのでこの部会として、新しいアイデアを提案していてもいいのかなと思いました。

皆さん、本当にここまで短時間でまとめられたこと、本当に素晴らしいと思います。少しでも皆さんの意見を生の形でまとめられるよう、私も努力していきたいと思います。皆さんには、8月そして今回と、長時間にわたる議論をしていただきまして、私も部会長として本当に皆さんのご意見参考になりました。ありがとうございました。大変お疲れ様でした。以上で、本日の議事は全て終了させていただきます。

## 閉会挨拶

### 【北海道子ども未来推進局・花岡局長】

皆さん大変お疲れ様です。先ほど、各グループでまとめられた発表を聞かせていただきましたけれども、SNSを活用した子育てイベントの情報発信ですとか、高校と保育園のコラボですとか、家庭科で絵本を作るといったことなど、大変参考になる内容だと感じております。

広い北海道、どこに住んでいても安心してご家族が子育てをできるということは、子ども達の健やかな成長や少子化対策、さらには人口減少対策などに繋がっていくというふうに考えております。

今日、皆さんから頂いたご意見は、年明けに代表の方から高橋知事に直接報告をしていただくこととしております。来年は、「北海道」と命名されて150年目を迎えます。こうした節目の年にまとめられる様々なアイデアを私ども道庁をはじめ、北海道全体で生かしていきたいというふうに考えております。

お忙しい中、ご出席いただいた富田部会長、そして委員の皆さんに心から感謝を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

## 閉 会





● 保育園（保育士）を増やすための取り組みとは、保育士のことを知ってもらうためには…

SNS	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中高校に保育士のOB・OGに来てもらい、話を聞く。</li> <li>・自分たちが体験したことを、SNSを利用して拡散する。</li> </ul>
ポラン ティア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所や幼稚園に訪問する機会がない、気軽に行けない。 → 生徒会や学校で、保育士志望の人を集めて、保育所や幼稚園に訪問する。</li> <li>・ボランティアや体験をしてもらうための機会を見つける場が少なく、分かりづらい。 → 各市で、もっと分かりやすく、見やすくするべきだと思う。</li> </ul>
募 金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募金をすれば、親のいない子や生活に困っている子、施設の資金になる。</li> </ul>

結 論

- ・ SNS を利用して、拡散し、興味・関心を持つ人を増やす。
- ・ 募金を積極的に行う。
- ・ それぞれの地域にあった活動をする。  
(例) 小さい学校は、各施設に訪問出来る。  
大きい学校は、交渉することによって、活動の幅を広げることができる。

● 子育てしやすい環境づくりのため、自分たちが今出来る身近なことは…

育児 ・ 保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産休・育休を男性も取りやすい仕組みを作る。 → 夫婦間の相互理解や家事の分担が図れる、働きたいと思う女性が働ける社会へ</li> <li>・自分たちが保育士について知り、まずはみんなに良さを伝える。</li> <li>・中学校や高校で、子育てサロンを開く。</li> <li>・老人ホームの近くに保育所や施設を作ることによって、交流しやすい環境が出来る。</li> <li>・留学生の受け入れを増やし、子どもの世話をする人を増やす。</li> <li>・町内でイベントを増やす → 色んな人とふれあう → 地域での協力し合える</li> <li>・中高生は、イベントにボランティアとして参加し、子どもとふれあう楽しさを知りたり伝えたりしてもらう。</li> </ul>
---------------	--

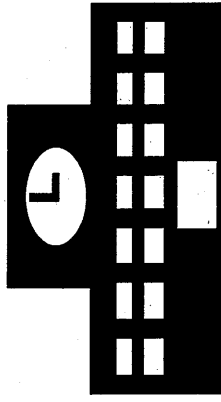
できること

- ・ ボランティアを必要とする人と、利用する人がつなげる場を設ける。
- ・ 興味のある人の仲間をつくる。
- ・ 様々な年代層が集まれるイベントを作る。
- ・ 留学生に日本文化を伝え、外国の文化を教えてもらう。(例) お正月、お月見、クリスマス、ハロウィン  
⇒ 子どもと関わる機会を増やす。

# 学校 × 保育園

## <結論>

学校×保育園という形を使って、保育科コースを増やしていく



### 地域

「わらしやらんど」

- 自然とふれあったり、キヤンプや餅つきなどのイベントをしているグループ的なもの。小さい子から中学生まで参加できる。大人や高校生の手伝いOK。
- ふれあう場が増える。

### 図書館祭り

- 中高生や教育課の人たちが図書館でバッグの作成やフリママーケットなどを行う。

地域のボランティアサークルや母親達が、幼稚園や図書館に行き、絵本の読み聞かせをしたりする。

- 中高生が読み聞かせてもいいのでは？

### 学校

中学生～幼稚園児までのお遊戯会などがあり、楽しかった。

中学3年生は、授業中に赤ちゃん用のおもちやを作り、それを使ってふれあい体験をしている。

中学校でも、妊婦体験などがあると良い。

### 小規模緑日

- 中学生が小学校に行く。6歳以下とは触れ合う機会が少ない。

家庭科の時間に、離乳食を食べたり、妊婦体験をしたりする。

### ～メリット～

- ・高校生と幼児がふれあうことで
- 幼児の心の成長につながる
- 高校生も幼児に対して興味を持つ
- ・「かわいい」と思うことが出来れば、子どもが欲しくなる
- 少子化対策
- ・場所を一緒にすることで
- 費用の削減や、学校の授業（家庭科）の幅が広がる

### ～デメリット～

- ・子どもがケガをするかも。
- ・学生の勉強のジャマになるかも。
- ・学校によっては、保育園をつくるスペースがない
- ・学校内の保育園に子どもを預けるのが不安な親もいるかも。
- ・子どもが苦手な学生もいる。

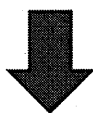
## Bグループ（補足）

- ・そもそも子どもに興味がない人がいる
- ・イベントを開催してもそういう人は興味がないから来ない。
- ・イベントや授業でやってはいるものの、まったく子どもに触れないまま高校卒業まで行く人もいるのではないか。

子どもと接したことの無い人の中には、食わず嫌い（その辺で騒いでるのでなんとなく苦手）的な感じの人もある。

まず接する機会がなければ始まらないけど、授業だとやらされている感がある。

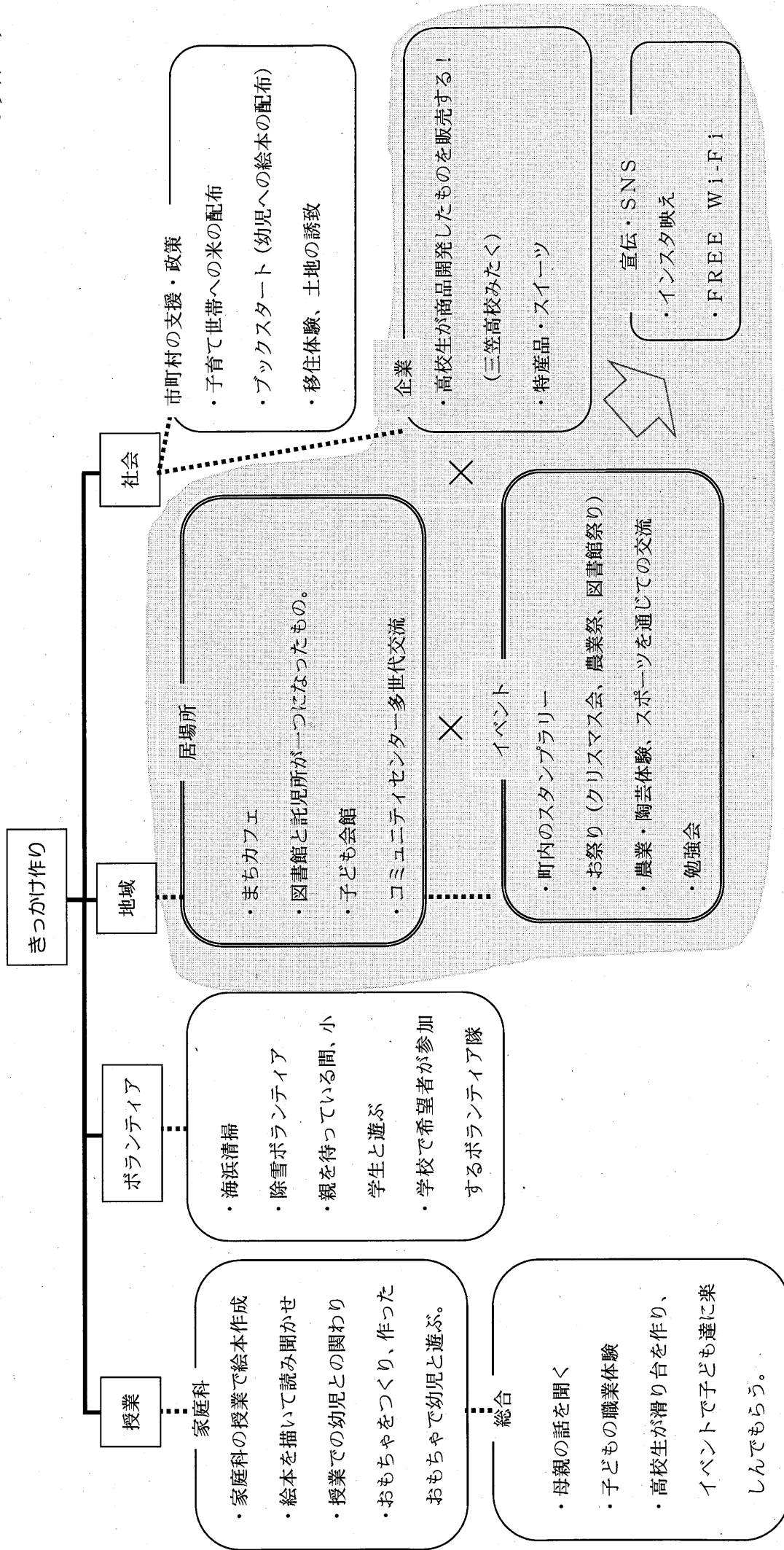
- ・接する機会がなければ好きも嫌いもない。
- ・いっそ幼稚園や保育所の運動会に中高生が飛び込みで参加したらいい！
- ・グラウンドを共用にして、そこに子どもがいることが普通の環境になればいい。子どもと接することなしには生活ができないように・・・



・もう保育園と高校を一緒にしてしまおう！

※メリットやデメリットは模造紙のとおり

- ・保育園と中学や高校を一緒にしたら、保育科コースを作れる。
- ・実習がしやすい。
- ・この取り組みで保育士不足も解消されるかも！



私たちの要望

●中高校生が、小さい子ども達と関わるきっかけをつくるため・・・

1. 地域と学校の関わり合いを増やす。
2. 若い世代の人たちの居場所を作る。
3. 地域がSNSを活用して、情報を発信していく。

南幌町の取り組み

南幌町立南幌中学校3年生 嘉津山 詩恩

南幌町は

少子化を含んだ人口減少を問題視



人口増加のために

宣伝

- ・町外や道外のイベントに出席。
- ・近隣の幼稚園にマスコットキャラクターを連れて宣伝。

町を  
知ってもら

- ・町を知ってもらうため、スタンプラリーや移住体験を行っている。

町へ  
来てもら

- ・子育て世代は、町で家を建てる時に助成金がもらえる。
- ・子どもへの米の配布や通学助成。



最近、新しい家が建ってきているので、効果は出てきていると思う。

少子化の現状や少子化対策・子育て支援について

北海道伊達高等学校3年生 渋木 佳人

#### 25年後の北海道

- ・若年女性の約6割が減少

#### なぜ少子化対策をするのか

- ・社会的  
一人っ子が多くなり孤立しないため
- ・経済的  
生産年齢者を増やすため

#### なぜ少子化になってきているのか

- ・高学歴化  
一人にかかるお金が増加
- ・晩婚化  
結婚年齢が上がっている。

#### 北欧で行っている制度

- ・スピード premia  
2人目以上は給付金が高くなる。

#### 伊達市・北海道で行っていること

- ・医療費を2～3割負担
- ・一部店舗の割引

#### 資金の集め方

- ・各自治体のふるさと納税を道に納める制度を作る
- ・北海道の税金をいくらか子育てにまわす